

部長会議開催結果 概要

●日時	令和4年8月2日(火) 午後1時30分から午後2時10分まで			
●場所	3A会議室			
●出席者	■は出席(代理出席は○)			
	■ 市長	■ 内田副市長	■ 高村副市長	■ 教育長
	■ 政策部長	■ 総務部長	■ 暮らし安心部長	■ 文化スポーツ部長
	■ 福祉部長	■ こども健康部長	■ 環境産業部長	■ はだの魅力づくり担当部長
	■ 都市部長	■ 建設部長	■ 上下水道局長	■ 教育部長
	■ 消防長			
	進行：副市長 事務局：総合政策課長、課長代理、担当 陪席：秘書課長			
●会議	1 市長あいさつ 2 報告事項 (1) 工事請負契約の締結について 契約検査課、水道施設課 (2) 民生委員・児童委員候補者の情報提供について 地域共生推進課 (3) 金目川水害予防組合所有地等の堰堤改修工事について 森林ふれあい課 (4) 秦野市森林整備計画を改定することについて 森林ふれあい課 (5) 土地利用委員会調整部会の審議案件について 開発指導課 3 その他 所管事務調査			
●会議概要	1 市長あいさつ ・新型コロナウイルス感染者が7月中旬から急増し、国は、BA.5対策強化宣言を新設し、神奈川県でも県知事が宣言発出の意向と聞いている。本市では、7月25日現在で、3回目のワクチン接種率が72.99%と、県内でも高い水準にあり、18歳以上の基礎疾患を有する方と、60歳以上の高齢者に対する4回目のワクチン接種を実施し、高齢者施設等の従事者についての接種も可能となった。3年にわたる対策をそれぞれの立場で振り返り検証しながら、社会活動の継続とポストコロナに何が必要か部局間で連携して検討してほしい。 また、感染者が増加しているが、行政サービスを止めることはできないので、事業継続計画の確認と、基本的な感染症対策を徹底してほしい。 ・7月1日から秦野市総合防災情報システムの運用を開始し、29日には株式会社ゼンリンと災害協定を締結した。7月26日は、一時的大雨により、防災本部が設置され、市内のパトロールを行った。これからの台風シーズンに備え、自然災害に迅速かつ的確に対応できるよう、予めできることを各自確認しておくこと。 ・令和5年度県の施策・予算等に関する要望について、7月27日に立憲民主党及び公明党、8月1日に自民党のヒアリングを受けた。明日3日には湘南地域県政総合センター及び平塚土木事務所、4日には副知事に要望書を提出する。要望後も継続してフォローアップし、施策の実現に向けてやるべきことを意識してほしい。			

- ・ 8月8日から総合計画のヒアリングを開始する。4月のヒアリングで共有した事項について、議会对応を踏まえた進捗状況を確認し、令和5年度の予算編成につなげる重要な工程となる。与えられた4年間で、総合計画の骨格となる「秦野みらいづくりプロジェクト」を具現化できるようヒアリングに臨みたい。各施策において懸案となっている課題等について、積極的に議論したい。

2 報告事項

- (1) 工事請負契約の締結について 契約検査課、水道施設課

【説明】資料に基づいて説明

- (2) 民生委員・児童委員候補者の情報提供について 地域共生推進課

【説明】資料に基づいて説明

【意見・質疑】

Q. 主任相談児童委員については、地区全体で1名なので、候補者となる方は多いと思うが、どうか。

A. 地域の市職員や教職員OBと協力し、就任の打診をしているが、現時点では決まらないので引き続き努力したい。

- (3) 金目川水害予防組合所有地等の堰堤改修工事について

森林ふれあい課

【説明】資料に基づいて説明

Q. それぞれの堰堤はいつ作られたのか。

A. 御坂堰堤は昭和39年2月16日、春嶽堰堤は大正15年6月13日、春嶽堰堤第1号石堰堤は不明である。

Q. 工事時の資材運搬方法は。

A. 県は、御坂堰堤では柏木林道、春嶽堰堤では春岳林道を利用して、堰堤付近まで車で搬入し、春嶽堰堤第1号石堰堤については、春嶽林道から堰堤付近まで資材搬入用モノレールを敷設すると聞いている。

- (4) 秦野市森林整備計画を改定することについて 森林ふれあい課

【説明】資料に基づいて説明

【意見・質疑】

Q. 本計画の策定により、森林環境譲与税の上乗せ等のメリットはあるか。

A. 「森林経営管理制度の活用に関する方針」を定めることにより、造林補助の係数が増加する。

Q. 計画案策定時に市民の意見を求めるために、パブリック・コメントは実施するか。

A. 本計画は森林法に基づき策定する計画であるため、同法の定める公告縦覧の手続により、市民から意見を求める。

(5) 土地利用委員会調整部会の審議案件について

開発指導課

【説明】資料に基づいて説明

【意見・質疑】

Q. 秦野市農業協同組合並木町建設事業ではどのような店舗が建築されるのか

A. 従前の資材売り場を改築するもの。

3 令和4年度所管事務調査について

教育部長

本年7月12日から14日にかけて、関西地方、中部地方3市を視察した。

(1) 京都府京都市では、不登校対策をテーマに「不登校相談支援センター」とセンターに隣接している不登校特認定校の「洛風中学校」を視察した。「洛風中学校」には、学習支援を受けたい不登校の生徒が在籍校から転校して通学している。全校40名の規模で、定期テストはなく、人を信頼し、社会とつながるための「学び」と「育ち」や、本人の意思を尊重し、学校に来ることを強要しないことを大切にしている。本市でも個別支援を行っているが、一人ひとりに寄り添った、きめ細やかな対応が必要であると感じた。

(2) 兵庫県神戸市では、「こども・若者ケアラー」への支援の取組を視察した。令和元年に20代の孫が介護疲れにより祖母を殺害した事件を教訓に、18歳未満の「ヤングケアラー」に限定せず、「こども・若者ケアラー」と位置づけて18歳以上の若者のケアも行う、全国初の相談支援窓口を設置した。窓口ではケアラー本人のほか、学校現場や民生委員等の相談にも応じている。窓口の設置により、事例を集約する場所が明確になり、以前より滞りない対応が可能となった。

(3) 富山県新中川郡舟橋村では、「子育て共助による地方創生」について視察した。全国の自治体で人口が減少している中、舟橋村は約30年で人口が倍増し、さらに増加していることで注目されている。住民は「地域コミュニティへの参加が地域の信頼を生む」という意識が高く、「子育て共助」の土台があり、行政も「子育て支援センター」建設の際に、サービス利用者に、「自分も他の子育て世代を手助けする一員だ」という意識付を行った。また、公園整備の際は、職員と小学生が一緒に企画、運営、管理し、住民に自発的にまちづくりに関わっている感覚が備わり、まちが活気や魅力にあふれ、人口倍増につながった。自己実現の機会を増やし、住民幸福度を高めることはまちづくりに欠かせないと実感した。